

公益財団法人 檜の芽会 会長 小村 武

*Takeshi Komura*



檜の芽会が設立60周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

檜の芽会は、(先代) 前田又兵衛翁(前田建設工業(株) 初代社長)が、社業でご縁があった北陸電力(株)の白石方亮氏のご退任時にご挨拶にあがった折、白石氏の持つ奨学事業への熱い想いのご信念に触れ、お二人およびお二人とご交流があった方々が発起人となり、昭和36年3月に設立されたと聞いております。

「檜の芽会」の名前の由来については、ご子息であり私の古くからの友人である前田又兵衛氏よりご説明を賜りましたが、白石氏が「ドイツが大戦の時に飛行機のプロペラに使ったのが檜の木であり、それはドイツの山野で多くのドイツの農民の手によって永年の間愛情を以て育てられた他に類を見ない優れた材質であった。」とのご見識を披露され、その優れた素材であった「檜の木」に因んで本会の名前を「檜の芽会」にしたいと、白石氏自らがお付けになられたとのこと。優れた若き奨学生を、檜の実であるドングリから芽吹いた姿に喩え、大きく立派に成長して「檜の大木」になって欲しい、という氏の思いが込められたとても良い名前であると私は思っております。

平成21年10月には、奨学事業財団として公益法人に認められました。私は、平成11年より理事として、公益法人後は評議員として、そして平成29年より、北陸電力(株) 元代表取締役会長 山田圭藏氏、元内閣官房副長官の古川貞二郎氏の後をうけ、会長として故前田又兵衛翁および故白石方亮氏のご遺志をはじめとした「若い力を育む」「社会に有用な人材を育成する」ことに微力ながらお役にたてたらと思ひ、本会の事業に参画しております。私にもやや奇特なご縁が前田又兵衛氏とあり、氏の懐の深さに取り込まれている一人であります。

前回の50周年時は東日本大震災に見舞われ、60周年の今日も未曾有なコロナ禍であります。我が国は、世界が羨む美しい自然や風景を作り出す豊かな地形や四季があり、それゆえに極めて厳しい自然条件のため、古来より多くの災害に見舞われ、その都度、様々な経験と知恵を国民のあいだに蓄積し、世界に冠たる経済大国、技術立国になりえました。

現在、グローバル経済活動と情報技術の革新に伴い、かつてのような国境の概念が希薄なっております。我が国の国際社会でのプレゼンスも新興国の台頭によりやや陰が見えてきていますが、是非、檜の芽会の若い奨学生や会員の皆さまは、グローバルな視点でものごとを考え、世界を舞台に活躍していただきたいと思ひます。当会が今後100周年に向けて、さらに「人を育てる場」となり、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。